

平成 2 5 年度 教育事務点検評価報告書
(平成 2 7 年 3 月議会提出)

南風原町教育委員会

目 次

議会への報告について	1
1. 教育事務点検評価審議会の会議の経過	2
2. 点検評価について	3
諮問文	4
答申書	6
はじめに	7
1. 教育委員会制度について	
(1) 教育委員会の概要	
(2) 教育委員会の会議	
(3) 教育委員会会議以外の活動状況	
(4) 教育委員会事務局の組織及び現員配置状況	
(5) 教育財政	
2 事務事業について	11
(1) 評価結果	
・ 教育総務課	
・ 学校教育課	
・ 生涯学習文化課	
おわりに	18

議会への報告について

平成20年4月1日に改正された地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条において、教育に関する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果について議会に提出するとともに、広く公表することとされました。南風原町教育委員会では同法に規定する教育事務の点検評価を実施するにあたり、教育に関して学識経験を有する者で構成する南風原町教育事務点検評価審議会を設置しました。

南風原町教育委員会部課長会議においては、第四次南風原町総合計画の施策に属する事務事業を各所管課（3課）から4事業を1課及び3事業を2課抽出して10事業についての点検評価の内部評価を行いました。

平成26年11月18日、南風原町教育事務点検評価審議会会長に対し「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について（平成25年度事業）」の諮問を行いました。

そして審議会の審議を経て、平成27年2月23日に、南風原町教育事務点検評価審議会会長より答申を受けました。諮問事項に関しましては、評価だけでなく、それぞれの委員の立場からの提言もいただきました。

今回の評価にあたってのご提言につきましては、本町の教育行政の執行に活かしていく所存であります。

本町教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価につきまして諮問及び答申の内容をとりまとめて、報告書として議会に提出するものであります。

平成27年 3月 3日

南風原町教育委員会
委員長 仲村渠 苗子

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

1. 南風原町教育事務点検評価審議会の会議の経過

第1回 南風原町教育事務点検評価審議会

日時：平成26年11月18日（火）午後2時～午後4時

場所：5階 執行部控室

委員出席者：委員3人中3人

説明出席：教育部長、教育総務課長、学校教育課長、生涯学習文化課長、

日程：1. 会長のあいさつ
2. 教育長のあいさつ
3. 諮問 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び
評価について
4. 各事業（10事業）の説明と質疑

第2回 南風原町教育事務点検評価審議会

日時：平成26年12月4日（木）午前10時～午後12時

場所：5階 委員会室3

委員出席者：委員3人中3人

説明出席：教育部長、教育総務課長、学校教育課長、生涯学習文化課長、
各主管課班長

日程：1. 第1回審議会の質疑事項の説明
2. 各事業（10事業）のヒアリング（各所管課）

第3回 南風原町教育事務点検評価審議会

日時：平成27年1月6日（火）午後2時～午後5時

場所：5階 委員会室3

委員出席者：委員3人中3人

説明出席：教育部長、教育総務課長、学校教育課長、生涯学習文化課長、
指導主事、各主管課班長

日程：1. 第1回、第2回での審議会の質疑事項の説明
2. 各事業（10事業）のヒアリング（各所管課）
3. 事務点検評価について
（各委員からの各事業の点検評価の確認、まとめ等）

第4回 南風原町教育事務点検評価審議会

日時：平成27年1月20日（火）午後2時～午後5時

場所：5階 委員会室2

委員出席者：委員3人中3人

説明出席：教育総務課班長、職員

日程：1. 事務点検評価について
（各委員からの各事業の点検評価の確認、まとめ等）

答申書提出

日時：平成27年2月23日（月）午後4時30分

場所：4階 教育長室

教育委員会出席：教育長、教育部長、教育総務課長、教育総務課庶務班長

2. 点検評価について

(1) 点検評価対象年度
平成25年度

(2) 点検評価の内容
答申書のとおり

(3) 点検評価の方法

点検評価内容については、第四次南風原町総合計画の教育の施策に属する事務事業の中で、各所管課（3課）中、1課から4事業、2課から3事業を抽出しての10事務事業となっています。これらの事務事業を点検評価するにあたり、事業ごとの点検評価シートを作成し、妥当性・効率性等の複眼的視点による評価を試みました。

さらに、教育委員会による内部評価に加え、点検評価審議会による外部評価を加えることで、評価の客観性を確保しました。なお、評価における価値基準及び総合評価基準については、次のとおりです。

① 評価基準

評価については、妥当性・効率性・有効性・今後の展開の4つの視点から次表のとおり点数を付しています。

点数	妥当性	効率性	有効性	今後の展開
4	教育委員会が関与する妥当性が非常に高い	投入コストに比べ活動量が非常に高い	成果が非常に高い	事業規模の拡大が望まれる
3	教育委員会が関与する妥当性が高い	投入コストに比べ活動量が高い	成果が高い	事業規模の維持が望まれる
2	教育委員会が関与する妥当性が低い	投入コストに比べ活動量が低い	成果が低い	事業規模の縮小が望まれる
1	教育委員会が関与する妥当性が非常に低い	投入コストに比べ活動量が非常に低い	成果が非常に低い	廃止または休止が望まれる

② 総合評価基準

総合評価については、妥当性、効率性、有効性、今後の展開の合計点数により次表のとおり評価が下されます。

評価	妥当性・効率性・有効性・今後の展開の合計点数の範囲
A	14点 ～ 16点
B	11点 ～ 13点
C	8点 ～ 10点
D	4点 ～ 7点

諮 問 文

南教総第692号
平成26年11月18日

南風原町教育事務点検評価審議会
会長 梶村光郎 様

南風原町教育委員会
委員長 仲村渠 苗子

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について（諮問）

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について、南風原町教育事務点検評価審議会設置条例第2条の規定により諮問します。

諮問事項

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

諮問理由

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条に基づき、教育委員会の教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を実施し、議会に提出するとともに、町民に公表するため。

平成26年度（平成25年度実施事業）
教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価対象事業

【教育部 教育総務課】

1. 教育委員会運営事業（定例教育委員会）
2. 各種スポーツ大会
3. 黄金森公園運営事業
4. 学校給食実施事業

【教育部 学校教育課】

1. 小中学校図書購入事業
2. 学習支援員等配置事業
3. 幼稚園運営事業

【教育部 生涯学習文化課】

1. 放課後子ども教室推進事業
2. 陸軍病院壕公開活用事業
3. 青年海外派遣事業

答 申 書

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

平成27年2月23日
南風原町教育事務点検評価審議会

はじめに

南風原町教育委員会は、平成20年度4月1日から施行された地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条の改正により、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用するための付属機関として、南風原町教育事務点検評価審議会を設置した。この度の事務事業点検評価は、平成26年11月18日に南風原町教育委員会委員長から「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について」の諮問を受けて実施したものである。

点検及び評価を実施するにあたって、諮問された事務事業に関する資料提供を受け、事務担当課から事業の概要や状況について説明及び報告をしてもらった。その上で、不明な点について、追加の資料の提出や説明をしてもらった。また、学校や文化センター、中央公民館等への視察も実施した。

点検評価は、次のとおりである。

事務事業について

40余の主事業の中から、10事業について資料提供を受け、ヒアリングや視察等を行い、慎重に審議を行った。各課の事業とも町民を主体とした教育、健康増進、文化を高める事業として評価できるものであった。今後も、南風原町がより発展するよう、きめ細やかに事業の取り組みを進めていくよう期待する。

南風原町教育事務点検評価審議会

会 長 梶 村 光 郎

副会長 浦 崎 節 子

委 員 山 中 久 司

1. 教育委員会制度について

(1) 教育委員会の概要

教育委員会は5名の委員をもって組織する合議制の執行機関です。委員は町議会の同意を得て、町長が任命します。任期は4年で、教育行政の安定を図るため町立小学校の校区毎に選任され、毎年1人ずつ改任（又は再任）されます。

委員長は、委員の中から互選され、会議を主宰し教育委員会を代表します。

また、教育長は委員の中から選任され、教育委員会の指揮監督の下に教育委員会の権限に属するすべての事務をつかさどり、事務局の事務を統括し所属職員を指揮監督します。

教育委員（平成25年度）

役 職	氏 名	任 期	校 区
委員長	赤 嶺 幸 信	自：平成25年4月1日 至：平成29年3月31日	南風原小学校
委員長職務代理	仲村渠 苗 子	自：平成24年4月1日 至：平成28年3月31日	津嘉山小学校
委 員	島 袋 健 次	自：平成22年6月1日 至：平成26年5月31日	北丘小学校
委 員	長 元 朝 顯	自：平成23年4月1日 至：平成27年3月31日	翔南小学校
委 員（教育長）	赤 嶺 正 之	自：平成25年4月1日 至：平成29年3月31日	_____

(2) 教育委員会の会議

平成25年度は、定例会12回会議を開催し、41件の議案を審議しました。そして教育長諸般の報告が12回、報告14件、その他の案件3件については議案に準ずる案件として議論したほか、議題を設定して委員同士のフリートークを行いました。

定例教育委員会へは、事務局の部長、課長、指導主事が出席し、議案と報告案件の説明、質疑に対する回答がありました。

また、町長と教育委員との意見交換は、当初予算の予算編成ヒアリング前に1回実施しており、教育委員会の重点施策及び主要事業について意思の疎通を図りました。

平成24年度より民生委員・児童委員と教育委員会との連絡会が実施され、各々の役割や意見交換等を行い相互理解に努めました。

(3) 教育委員会会議以外の活動状況

教育委員が、職務上出席した研修会・行事等は、以下のとおりです。

- ・ 沖縄県市町村教育委員会連合会 2回
- ・ 島尻市町村教育委員会連合会 1回
- ・ 沖縄県市町村教育委員・教育長研修会 1回
- ・ 島尻市町村教育委員研修会 1回
- ・ 幼稚園・学校訪問（学力向上実践発表会など含む） 7回
- ・ 幼稚園・学校行事 12回
- ・ 教育講演会 1回
- ・ その他の行事等 13回

(4) 教育委員会事務局の組織及び現員配置状況 (平成25年4月1日現在)

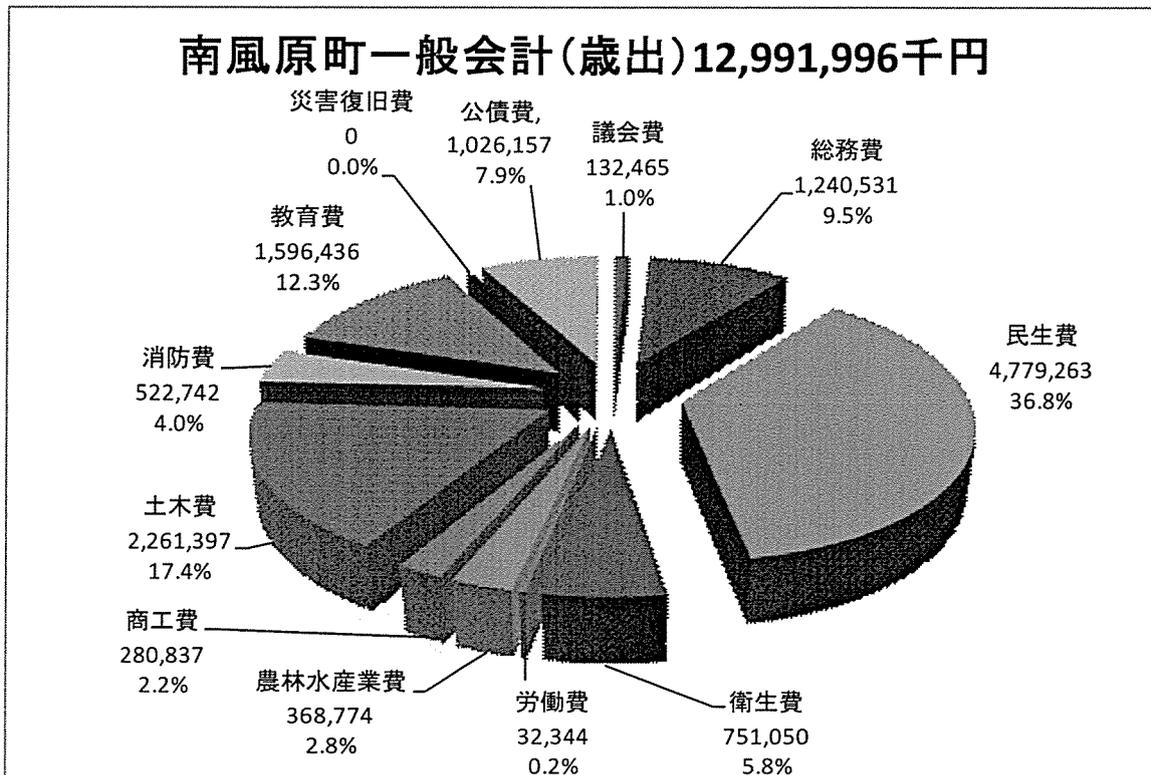
組		織	人員(人)	備 考
教育部 計 64 人	部長		1	
	教育総務課 計 20 人	課長	1	
		庶務班	2	
		保健体育班	2	
		学校給食班	15	
学校教育課 計 7 人	課長	1		
	指導主事	1		
	学校教育班	3		
	学務班	2		
生涯学習文化課 計 9 人	課長	1	文化センター館長及び町立 図書館館長を兼務 (町立図書館)	
	生涯学習班	3		
	図書館司書	1		
	文化班	2		
	学芸班	2		
教育機関 計 27 人	町立中央公民館	1	館長(嘱託)	
	〃	1	社会教育指導員(嘱託)	
	町立図書館	2	図書館司書(嘱託)	
	文化センター	1	町史編集員(嘱託)	
	幼稚園(4園)	16	園長(嘱託)・教頭・教諭	
	小学校(4校)	4	図書館司書	
	中学校(2校)	2	図書館司書	

(5) 教育財政

平成25年度の南風原町の一般会計歳出決算は、12,991,996千円で、前年度の決算と比べて1,035,607千円(8.66%)の増となっています。そのうち教育予算は、1,596,436千円で前年度決算と比べると242,566千円(15.19%)の増で、一般会計に占める比率は、12.3%となっています。

なお本町の一般会計歳出決算の構成、教育費の年度別決算額推移は、次のとおりとなっています。

平成25年度南風原町一般会計決算の構成



平成25年度教育費（課毎）財源別一覧表

単位：円

項目	教育総務課	学校教育課	生涯学習文化課	合計
負担金		972,500		972,500
使用料	14,947,311	32,127,750	11,261,750	58,336,811
国庫補助金		3,238,000		3,238,000
県支出金	58,000	64,349,000	2,617,000	67,024,000
寄付金	1,000,000			1,000,000
給食費	197,583,164			197,583,164
雑入	2,650,077	301,026	4,836,319	7,787,422
地方債		93,400,000	3,100,000	96,500,000
合計	216,180,552	194,446,276	21,815,069	432,441,897
その他計	216,180,552	33,401,276	16,098,069	265,679,897

※合計＝上記項目の全ての合計 その他計＝負担金＋使用料＋寄付金＋給食費＋雑入

※沖縄振興特別推進交付金を除く

平成25年度教育費決算額の財源別一覧表

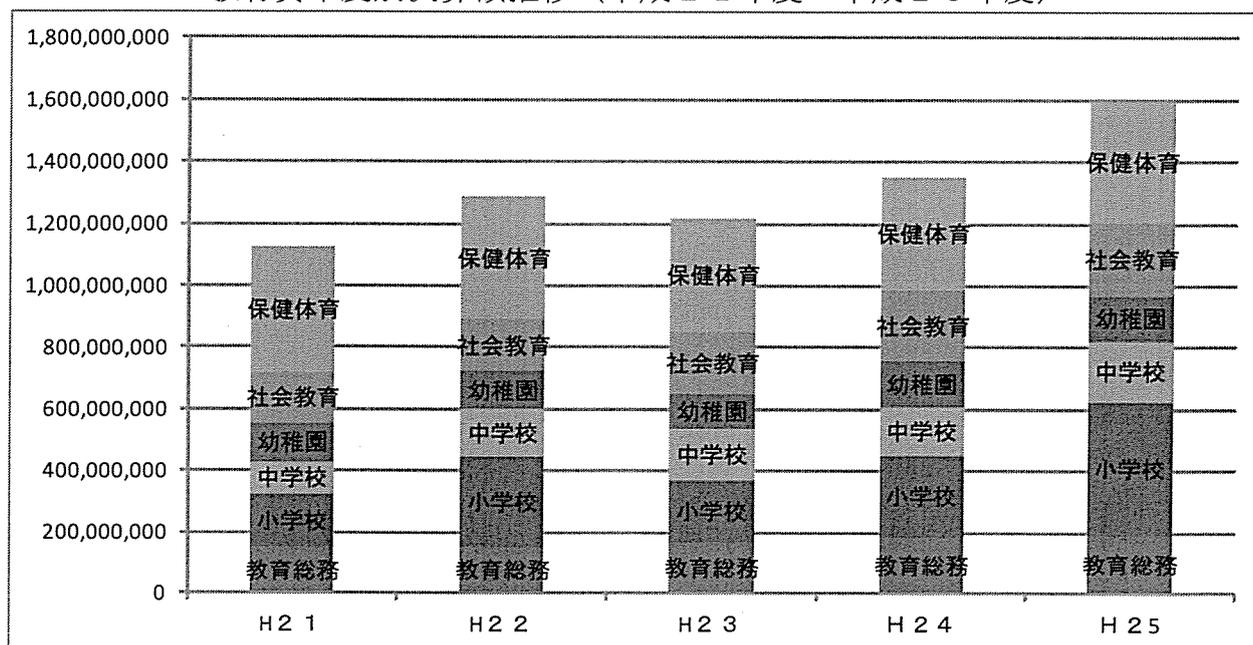
区分	決算額	比率
一般財源	1,163,994,486	72.91%
国庫支出金	3,238,000	0.20%
県支出金	67,024,000	4.20%
地方債	96,500,000	6.04%
その他	265,679,897	16.64%
合計	1,596,436,383	100.00%

教育費の年度別項別分類（平成21年度～平成25年度）

単位：円

款	項	H21	H22	H23	H24	H25
教育費	教育総務	145,738,025	151,055,584	167,488,895	183,096,256	190,762,317
	小学校	178,366,305	294,080,643	201,210,823	269,689,117	435,662,315
	中学校	104,637,966	155,173,738	169,342,189	154,534,578	197,542,563
	幼稚園	126,901,751	121,129,345	112,190,724	149,529,046	146,036,497
	社会教育	164,080,782	168,981,094	199,612,735	227,825,490	233,566,199
	保健体育	405,965,337	394,568,427	369,663,681	369,195,171	392,866,492
合計		1,125,690,166	1,284,988,831	1,219,509,047	1,353,869,658	1,596,436,383

教育費年度別決算額推移（平成21年度～平成25年度）



2 事務事業について

(1) 評価結果

教育委員会が行った内部評価及び南風原町教育事務点検評価委員会が行った外部評価の結果は次のとおりである。

第四次南風原町総合計画

〈大分類〉

- 家庭と地域が一つになり、安らぎと豊かな人間関係を育む、家庭教育
- 地域に学び、地域を愛する人を育む、ふるさと教育
- 個性を伸ばし、豊かな心と健やかな体を育む、地域に根ざした学校教育

事業名 (担当課)	事業概要	評価区分	評価詳細					説明等
			妥当性	効率性	有効性	今後の展開	総合評価	
教育総務課	教育委員会 運営事業 (定例教育 委員会)	内部評価	4	4	4	4	A	毎月の定例会では、その時々案件に対して積極的に意見交換及び審議し、成果を得ている。更に、定例会終了後は、教育に関することを議題とした意見交換会を積極的に行っており、年に1回は社会教育委員との意見交換会も行っている。委員、教育長の研修会へも全員で参加している。各学校への入学式・卒業式等の行事もほとんど参加している。また平成22年度からは、学校公開日を設けて授業参観を行い、後日学校訪問を行うなど校長等との意見交換会や児童・生徒の激励に努めた。
		外部評価	4	4	4	4	A	教育委員達の毎月の定例会への出席率も全体として高く、その時々教育長による諸般の報告について意見交換をしたり、人事や物品の購入などの案件について適宜審議したりして、業務に支障が無いようにしながら運営されている。このことは、評価される。次に委員達は、各学校・幼稚園の行事への参加、学校訪問、各校長達との意見交換会の開催、授業見学、学力問題など、多方面から学校と関わりをもち、その実態を把握して学校教育の改善を図ろうとしている。この点はPTAとの交流も視野に入れると、全体的に学校や幼稚園及び親の教育要求を念頭に入れて学校教育の改善を図ることに繋がるものであり、有益な取り組みをしていると評価できる。これらの多様な活動から教育委員達の職務に対する意識の高さを窺うことができる。さらに注目される点は、さまざまな研修会や交流会に参加し、自らの見識を高める努力をしていることである。このことによって教育を見る目が肥え、質の高い教育事業を展開することができるようになるだろう。今後は、社会教育委員との意見交換に見られるような活動をさらにを行い、社会教育と学校教育の連携を強めながら、町全体の教育の向上を図っていくことを期待したい。そういう期待に応えるような動き(社会教育委員との意見交換)も見られるようになったことも踏まえ、この教育委員会運営事業の取り組みを高く評価した。

第四次南風原町総合計画

〈大分類〉〇地域に学び、地域を愛する人を育む、ふるさと教育

〈中分類〉〇学びの場の充実

〈小分類〉〇スポーツを通して町民の健康増進を図る

事業名 (担当課)	事業概要	評価区分	評価詳細					説明等
			妥当性	効率性	有効性	今後の展開	総合評価	
教育総務課	各種スポーツ大会	内部評価	4	4	3	3	A	事業の目的は各種大会とも概ね効果をあげているものと思われる。参加人数実績も増えていることから、今後も継続して事業を進めていきたいと考えています。
		外部評価	4	3	2	2	B	<p>平成25年度実施されたスポーツ大会は、参加者の数、実施項目、プログラムの進め方等、計画当初の目的は十分に得られたものと思う。</p> <p>シニアスポーツ大会は、多様なプログラムで町内のシニアの方々が和気あいあいと親睦を図り、競技を通して自身の健康を確認し、より元気に生きていく目標を見出すよい機会となっている。プログラムにもこまやかな配慮が有り、進行も良好で、お互いの親睦と、さわやかな健康を意識できる良い事業である。</p> <p>小中学生陸上競技大会は、町内学校間の児童・生徒が陸上競技を通してお互いの競技力を確認し、学校間の親睦を図り、競技力の向上を図る良い機会となっている。</p> <p>新春マラソン大会は、異なった競技の部活員が多数参加してお互いの基礎体力・競技の向上・親睦を図る良い機会となっている。又、チームとして年頭の志を確認・団結を図る場ともなっている。</p> <p>実施されている事業に関しては成果を出しており、文部科学省よりの表彰を受ける等高く評価されている。</p> <p>しかし、シニアスポーツ大会を除く事業に関しては、町内のスポーツの好きな、いわゆるスポーツエリートの子供が対象となっている。一般的に近年、子どもの体力・運動能力の低下傾向が続くとともに肥満傾向の割合が増加するなど、生活習慣病への危険性が高まっている。体力は人間の活力の源であり、健康の維持・増進のほか意欲や気力といった精神面の充実にも大きく関わってくる。子どもの体力低下が頑張る力やひいては学力にも大きく関与し、将来の社会全体へ影響を及ぼす根源となってくる。そこで、行政・学校・家庭・地域が連携した、子どもが積極的に体を動かすとともに適切な運動習慣を身につけさせていくための事業を進め、健康意識の向上、健康増進に寄与出来る企画をすることが望まれる。</p> <p>スポーツ推進員の活動を活発化させ、文科省の進めている親子で楽しむプログラム「子ども体力向上プラン」「元気アップ親子セミナー」等を通して、運動好きな子どもの育成を図り健康習慣のすそ野の広がりを図る事業の展開が必要である。</p> <p>また、広く町民(特にシニア層)の健康増進、健康と運動意識の高揚を図るには、部・課の枠(国保年金課・保健福祉課)を超えて連携を図る事業の展開が必要ではないか。</p>

第四次南風原町総合計画

<大分類>○地域に学び、地域を愛する人を育む、ふるさと教育

○ともにつくる、健康づくりと保健福祉のサービス基盤の整備

<中分類>○学びの場の充実・健康づくりの推進

<小分類>○スポーツ施設の活用を通して町民の健康増進を図る

事業名 (担当課)	事業概要	評価区分	評価詳細					説明等
			妥当性	効率性	有効性	今後の展開	総合評価	
教育総務課	黄金森公園運営事業	内部評価	3	3	3	3	B	スポーツ施設を有効的に活用し、町民の健康づくり・体力づくりに取り組んでいる。しかし、都市公園施設であるために町民と町外の利用者との判別が難しく、町民専用としての活用が出来ていない部分に課題が残る。
		外部評価	4	3	2	2	B	<p>多様な施設を有する黄金森公園運動施設は、スポーツを志す若い世代や、健康増進を目的とする多くの町民のトレーニングの場所であり、憩いの場、リフレッシュの場所となり、重要な役目を果たしている。現在は、町民だけでなく近隣の競技者の大切なトレーニングの場ともなっている。(陸上競技場・野球場・マシントレーニングルーム他)</p> <p>立派で多様な施設も、そこを利用している町民には、決して安易な憩いの場所ではない。高度な競技力を有する選手にとって、一般の健康づくり利用者は邪魔な状況で、接触したり、突き飛ばされたり危険な目に合うこともある。町民が安心して利用できる町民デーのような設定が月1なり設けられないか。</p> <p>トレーニングルームでは、専属の指導員の配置がないため使用上のトラブルや器具の管理上の課題がある。器具によっては使用上危険を伴う場合もあるので一般の利用者には専門の指導が付かないとリスクが大きい。</p> <p>黄金森運動公園各施設でも、スポーツに精通しているスポーツ推進委員の力を導入して、健康増進や、町民の健康度の底上げができるようなシニアの体力増進教室や、健康増進サークル等、利用者の時間的なニーズに合わせて昼間の施設の空いている時間帯に開設できれば、夕方の過密な時間帯の危険な状況も解消される。教室やサークル等で運動を継続することにより、健康・体力の定着を図る。</p> <p>評価対象年度ではないが平成27年よりプロサッカーチームのキャンプを誘致することは、これから競技を志す子ども達に、高度な競技力に触れ大きな刺激が得られる良い機会となる。</p>

第四次南風原町総合計画

<大分類>○個性を伸ばし、豊かな心と健やかな体を育む、地域に根ざした学校教育

<中分類>○子どもたちの心身の健康づくり

<小分類>○健康や環境の視点も取り入れ、学校や地域の特徴を生かした食育の推進を図ります。

事業名 (担当課)	事業概要	評価区分	評価詳細					説明等
			妥当性	効率性	有効性	今後の展開	総合評価	
教育総務課	学校給食実施事業	内部評価	4	4	4	4	A	食生活を取り巻く社会環境の変化に伴い、偏食、朝食欠食など子どもの食生活の乱れが見られ肥満傾向にあるので、学校給食を活用した食に関する指導を実施しました。又、県内及び町内の野菜等を献立に取り入れることにより、地産地消に取り組みました。さらに、今年度から幼稚園改革の一環で幼稚園児にも学校給食提供が始まりました。
		外部評価	4	4	4	4	A	<p>健全な食生活を培い学校をより楽しく豊かな場にする事業として実施されている。郷土色のあるメニューや食育指導でより充実した内容となっている。幼稚園での給食開始は社会的なニーズによるものだけではなく学校生活をより豊かにするものとなっている。</p> <p>旬の県産野菜を使うなど品質や安全面に配慮し、伝統的な行事食も提供されている。給食費は10年近く据え置かれており、滞納や保護者への対応もされている。</p> <p>家庭での食生活が偏ったものとなっており、肥満などの健康被害が増えている中で、望ましい食習慣を養うための一助となっている。また食物アレルギー対策として、アレルギーを含まないメニューの開発や、保護者を交えた話し合いを定期的に行うなどされている。栄養教諭が協力し授業として実施されている食育指導で、生命や自然を尊重し環境を守ることの大切さや、食が様々な人の活動に支えられていることについて理解を深めている。</p> <p>地域食材の活用や、伝統食メニューの提供は、地域への関心を高く取り組みとなっているとともに、地域の活性化が期待できる。残滓が出ることは現在の子どもの食生活の現状からやむを得ないと考えられるが、メニューの工夫などで改善が図られている。また飼料や肥料としての活用も図られ不要物はない。</p>

2 事務事業について

(1) 評価結果

教育委員会が行った内部評価及び南風原町教育事務点検評価委員会が行った外部評価の結果は次のとおりである。

第四次南風原町総合計画

〈大分類〉○個性を伸ばし、豊かな心と健やかな体を育む、地域に根ざした学校教育

〈中分類〉○子どもの自治意識や豊かな心を育む学習内容の充実

〈小分類〉○基礎学力の定着・向上をめざすため、学習指導の工夫改善を図ります。

事業名 (担当課)	事業概要	評価区分	評価詳細					説明等
			妥当性	効率性	有効性	今後の展開	総合評価	
学校教育課	小中学校図書購入事業	内部評価	4	3	4	4	A	町立4小学校及び2中学校の学校図書の充実を図るために、毎年図書を購入しています。各学校の蔵書数は別添のとおりです。「学校図書館図書標準」による標準冊数を超えている学校は小学校4校だけで、中学校の2校は標準冊数に達していません。課題としては、標準冊数に達している学校も含め、古い図書が多くなっている事であり、今後は図書の入れ替えを行う中においても蔵書の達成率を確保し、又維持していきたいと考えています。
		外部評価	4	3	4	4	A	本事業は、南風原町内にある小学校と中学校の児童・生徒を対象にして、子ども達の感性や心を豊かに育むことを目的として行われている。この事業を評価する目安の一つは、学校図書標準(平成5年3月制定)の基準に照らして、それをクリアしているかどうかということである。それに照らしてみると、蔵書達成率は、南風原小(113%)、津嘉山小(101%)、北丘小(105%)、翔南小(143%)、南風原中(96%)、南星中(96%)という状況である。各学校で数値が異なるが、一部の学校で廃棄と購入のアンバランスがあるように思われる。この数字が今後も変化しないようであれば、この事業を計画的に進めるための方策が必要になると思われる。現段階では、できるだけ廃棄と購入のバランスを欠くことがないように、各学校がそれぞれ図書館司書・図書教諭・図書担当教諭を中心にして購入計画を立てていく必要があるだろう。また、学校の図書標準の基準をクリアしている学校は、そのことに満足することなく、子ども達の心や感性をより豊かにするために選書の質を高めると同時に、読書指導により力を注いでいただきたい。行政もこの取り組みをさらに支援していただきたい。と同時に、町立図書館から遠い位置にある学校の子供達は、学校図書館の図書しか利用できないことが考えられるので、図書購入予算面での配慮もお願いしたい。 最後に、この項目から外れることになるが、幼稚園における図書購入事業の創設と支援について、小中学校の読書活動の充実にも関わることなので、今後検討していただきたい。

〈大分類〉○個性を伸ばし、豊かな心と健やかな体を育む、地域に根ざした学校教育

〈中分類〉○子どもの自治意識や豊かな心を育む学習内容の充実

〈小分類〉○基礎学力の定着・向上をめざすため、学習指導の工夫改善を図ります。

事業名 (担当課)	事業概要	評価区分	評価詳細					説明等
			妥当性	効率性	有効性	今後の展開	総合評価	
学校教育課	学習支援員等配置事業	内部評価	4	4	4	4	A	各学校に学習支援員2名を配置し(中学校は適応指導教室含む)、又中学校には自立支援教室指導員を各学校に1名配置し、基礎学力の向上と不登校支援に努めた。全国平均を上回るよう引き続き学習支援員を配置する。
		外部評価	4	3	4	4	A	この事業は、全国学力・学習状況調査において、全国平均並にすることを意図した学力向上の取り組みの一環であり、具体的には南風原町内の学校の児童・生徒の基礎学力の向上のために、基礎学力が定着していない児童・生徒を支援するものである。平成26年度においては、小学校の場合、国語B以外の3科目において全国平均よりも上回る結果が現れている。今まで、平成22年度の算数Bで全国平均を上回ったことを除けば、3科目も全国平均を上回ったことは無かった。その意味で、大きな成果であると言える。また、中学の場合も、依然として全国平均よりも下回っているが、その差は縮まってきている。このこともそれなりに評価できる。ただし、学習支援員が、この成果に直接どのように貢献したのかを確認することはできない。しかし、学校全体に2名学習支援員が配置され、子どもの基礎学力の向上に従事したことは疑いようがない事実である。ある小学校の教員が、学習支援員の増員を希望し、2年生の学力向上に従事してくれば成果がさらに上げられるだろうと語っていたことからすれば、教育現場サイドからは学習支援員の役割が高く評価されると解される。その意味で、学習支援員の増加の有無、学年配置の問題などを、研修の実施と合わせて検討する必要があるように思われる。とりわけ、中学校における学力の向上については、中学の学習支援員の活動をどう活かしていくか、教師の指導力の向上の問題と合わせて検討する必要があるように思われる。

(大分類)○個性を伸ばし、豊かな心と健やかな体を育む、地域に根ざした学校教育

(中分類)○子どもの自治意識や豊かな心を育む学習内容の充実

(小分類)○子ども達が自ら学ぶことの楽しさを体得できる教育内容の展開をはじめ、様々な人との交流や文化に触れる等の体験学習を通して、自己表現・コミュニケーション力の向上を図ります。

事業名 (担当課)	事業概要	評価区分	評価詳細					説明等
			妥当性	効率性	有効性	今後の展開	総合評価	
学校教育課	幼稚園 運営事業	内部評価	4	4	4	4	A	町立4幼稚園における幼稚園管理運営経費を、効率的な予算執行に努め、快適な環境のもとで、その心身の発達を助長することができた。
		外部評価	4	4	4	3	A	<p>幼稚園運営は専任園長が配属されて2年目を迎え、園長を中心に町内4園とも穏やかに、健やかな運営が推進されている。各園に於いては密かに練られた園教育計画のもとに自信を持って保育することができていることで、保護者への信頼も高まり就園率の拡大につながっている。以前に比べ常に園長が在中していることで即座に問題に対応でき行動することができるようになって保育の状況が充実しているのは望ましい。</p> <p>また、保護者からの意見や、苦情に対しても園長が時間を取って速やかに、適切な対応をしていて、保護者への信頼を得ている。</p> <p>保育時間が長くなったことにより、保育の内容が充実して園児の成長の様子が窺えることは大きな成果である。特に、知的な発育の充実は、諸行事(運動会、生活発表会)を参観した際実感できるものであり、保護者にも大きな共感をえている。給食の導入は、食事マナーや食育に寄与し小学校への連携がスムーズにできている。</p> <p>園長導入により、職員会議を通し意見を掌握、園経営に反映できている。行事も計画的に実施できるようになった成果も大きい。(園の先生方の声)</p> <p>新しい園運営の形が整い、園としての成果も出てきているが、まだまだ町内には待機児童の数は多い。就園対象児が確実に公立幼稚園に就園して望ましい環境のもとで就学前教育を修めることは、町内の待機児童対策にも繋がってくるものである。又、将来的には保育年齢の枠を広げた保育の形も検討事項として上げられる。(3歳児・4歳児・5歳児保育)</p> <p>前回の評価の時点で上げたことであるが保護者の立場から、土曜日の預かり、春休みの預かりの実施の早期の検討が望まれている。</p> <p>現在園では人的な余裕がなく、職員が休んだ際の補充がない。代替え要因を委員会に登録して確保できないか。現在教頭が対応しているが、その場合教頭本来の仕事が遂行できない。(西原、中城、玉城では準備されている。)検討を要する必要あり。</p>

2 事務事業について

(1) 評価結果

教育委員会が行った内部評価及び南風原町教育事務点検評価委員会が行った外部評価の結果は次のとおりである。

第四次南風原町総合計画

〈大分類〉〇人もまちもきらきら育つまち

〈中分類〉〇地域に学び、地域を愛する人を育む、ふるさと教育

〈小分類〉〇地域での体験や交流機会の充実

事業名 (担当課)	事業概要	評価区分	評価詳細					説明等
			妥当性	効率性	有効性	今後の展開	総合評価	
生涯学習文化課	放課後子ども教室推進事業	内部評価	4	3	3	3	B	子ども達の放課後の安心・安全な居場所作りとして空き教室や公民館を利用しての教室を開催している。スタッフとして保護者や地域の人が関わりながら、宿題や室内遊び、屋外遊びを行っている。また、各学年と一緒に活動しており、異年齢交流が子ども達の心の成長にもいい影響を与えている。今後は様々な体験を通して、子ども達にとってよりよい居場所作りを進めていきたい。
		外部評価	4	2	3	2	B	本事業は子ども達の放課後の健全な育成を目的に、小学校の余裕教室を利用して安心・安全な居場所づくりとして、保護者や地域の方々の協力のもとで2時間程度、週2回を勉強(主に宿題等)、スポーツ、文化活動等を実施するものである。しかし子ども達の希望者が多い割に計画人数の制限が30人と押さえて限定されていること、また、現在子ども達と関わりを持ち教室を運営する人の人選に苦慮している状況であり、学校によっては、空き教室がなく事業が立ち上がっていない学校もある。学校や保護者によって、本事業の認知度に温度差があって、上手くいっている学校においては、子ども達の良い居場所となり異年齢の交流や地域の方々との温かい関わりも見られ成果を出している。円滑な事業運営を図るには、場所を学校の空き教室と限定せず、字の公民館等での実施の検討が必要ではないか。さらに、本事業と、学校側、保護者側に認識の隔たりが有り円滑な運営ができていない状況も有る。子ども達の安全・安心を確保するためには双方が十分に理解しあえるルール作りが必要ではないか。子ども達の放課後の健全な育成のために、担当課と学校、協力者(保護者)の意見交換をしてもらいたい。

第四次南風原町総合計画

〈大分類〉〇人もまちもきらきら育つまち

〈中分類〉〇地域に学び、地域を愛する人を育む、ふるさと教育

〈小分類〉〇地域での体験や交流機会の充実

事業名 (担当課)	事業概要	評価区分	評価詳細					説明等
			妥当性	効率性	有効性	今後の展開	総合評価	
生涯学習文化課	陸軍病院壕公開活用事業	内部評価	4	4	4	4	A	沖縄県内及び全国的にも、アジア・太平洋戦争時の戦争遺跡を行政が責任を持って管理して公開しているところはなく、先進的な取り組みである。特に、文化センターの展示と併せて壕の見学ができるため、総合的に沖縄戦の学習ができることへの評価は高く、県内外からの修学旅行を含めて、平和学習で訪れる見学者が平成25年度は1万人に達した。
		外部評価	4	4	4	4	A	15年前に町文化財に指定され、一般公開が始まってから8年目を迎える。壕公開と並行してガイド養成も取り組まれ、年間利用者は1万人に達しようとしている。見学者は口伝えやネットなどで増えるほか、平和学習目的の修学旅行などの団体見学も多く、文化センターの見学とセットで受け入れるなどの工夫がなされている。 公開されている壕は一方所だが、観測機器の設置や管理人の配置など安全面での配慮を万全にし、少人数で効果的に見学できるように工夫されている。陸軍病院壕は黄金の森を中心に広く張り巡らされていた施設であるが、この壕が保存され公開が行われていることで沖縄戦の実相に触れることができる意義は大きい。 沖縄戦を体験的に学習できる施設として県内外からの評価も高い。ガイドは毎年講座を受講して質の担保をはかり、新しい情報の提供に努めている。また文化センターの展示と併せて見学することで総合的に沖縄戦を理解しその背景としての地域についても知ることができる。 安全管理を徹底し壕の保存、公開を行っている。自然による劣化や公開による壕の環境の変化への対応も行われている。また壕内の臭いの再現など新しい取り組みが始まった。沖縄戦の体験者が亡くなっていく中で戦争の実相を語る貴重な証拠として今後も保存活用していくことが望ましい。

第四次南風原町総合計画

〈大分類〉〇人もまちもきらら育つまち

〈中分類〉〇地域に学び、地域を愛する人を育む、ふるさと教育

〈小分類〉〇国際交流の推進

事業名 (担当課)	事業概要	評価区分	評価詳細					説明等
			妥当性	効率性	有効性	今後の展開	総合評価	
生涯学習文化課	青年海外派遣事業	内部評価	4	4	4	4	A	平成元年度から実施している「海外移住者子弟研修生受入事業」と連携する事業で、南風原から移民地へ青年を派遣することにより過去の研修生たちがまとまり、受け入れ体制を作り研修生同士の役割の自覚が生まれた。派遣事業は相互に行き来することで事業効果をあげることができる。移民の歴史を世代を通して現在の地域間の交流に活かすための人材を育成することができた。
		外部評価	4	4	4	3	A	<p>海外移住者子弟研修生受入事業と連動し、移住先へ青年を派遣して、移住3世、4世との交流が図られている。戦後沖縄が大きく変貌を遂げる一方、移住先のハワイや南米に古き良き沖縄が残っている。青年を派遣し文化交流を図り、相互の文化や歴史を学ぶ一方、その経験を生かした活躍が期待されている。事業開始2カ年で南米、ハワイに計4名の青年が派遣され、帰国後、派遣者は世界若者ウチナーンチュ大会への参加や、受入移住子弟との交流などで活躍している。</p> <p>受入事業が受け入れ先のホームステイ先など受入体制に課題がある一方、派遣事業は派遣先の町人会、県人会が全面的にバックアップし研修が効果的に行われている。研修内容は町広報誌や報告書で公開され、町民の関心が高まり派遣希望者も多い。</p> <p>県内では体験できない海外移住先での生活や文化を体験し、移住子弟との交流や、研修プログラムを通して、次世代型のウチナーンチュを育成する事業となっている。移住先の町出身者らとのネットワークが構築され、帰国後、その経験を生かした活動が行われている。移住世代が世代交代し沖縄での記憶や関心が薄れる一方、移住先の古里沖縄への熱い思いを体感し沖縄について再考することのできる事業である。</p> <p>受入事業を全町体制で行い、文化、教育、産業での交流・研修の機会の充実を図ることが、派遣事業の拡大、充実につながっていく。町民の移住先の開拓地での苦難の歴史や現状を学校教育などでも紹介し、子ども達に移住先の歴史や文化などに興味関心を持ってもらい、移住先での生活を追体験することで広く国際感覚を身につけた人材の育成が望まれる。派遣者の今後の活躍に期待したい。</p>

おわりに

本年度も、昨年までと同様、教育に関する事務の管理及び執行状況の点検、評価に関して事業の概要や状況について説明を受け、さらに学校等関係機関を視察し、三名で慎重に審議を行った。

教育委員会運営事業については、昨年と同様、毎月の定例会への出席率も高く、適切に審議案件をこなし、業務に支障が無いようにしている。また、学校や幼稚園に出向き実態の把握に努めつつ、各校長やPTA等との意見交換も行い、学校教育の改善を図ろうとしている。さらに、研修などへも参加し、教育に関する見識を磨いている。それ以外に、社会教育委員と意見交換を行い、町の教育向上を図ろうとしている姿勢が窺える。このような点を評価した。しかし、社会教育に関する活動については、学校教育分野の活動と対比すると充分とは言えないように思われる。今後、社会教育面での活動も充実させて欲しい。

各種スポーツ大会事業については、当初の計画どおり進められ、目的を達成している。しかし、シニアスポーツ大会以外については、スポーツエリートの児童生徒の参加が中心となっており、健康の維持・増進のために、裾野を広げる必要があるように思われる。

黄金森公園運営事業については、多様な施設が整備されており、スポーツ以外の面でも重要な役割（憩いの場など）を果たしている。そういう点を評価した。しかし、健康づくりを目的としている人たちが安心して運動できるかという点で、課題があるように思われる。レベルの高い競技者とそうでない人たちが接触したり、ぶつかったりする危険性があり、こうした危険性をどのように回避するか、利用日や時間の面などでの工夫が求められている。

学校給食実施事業については、郷土食メニューの導入や食育指導で事業内容が充実している。また、幼稚園での給食も実施され、社会的なニーズに応えると同時に、園での生活を豊かにしている。さらに、アレルギー対策もなされており、全体的に高く評価した。

小中学校図書購入事業については、学校図書標準の基準と各学校からの要求を目安に実施されているが、蔵書達成率から見ると、図書の廃棄と購入のバランス面で課題が残されていると判断された。今後図書の購入計画を各学校でしっかり立てて、必要な書籍を揃えていく必要がある。行政には、予算面での充実と、町立図書館を距離面から利用しにくい学校の子ども達への配慮もお願いしたい。

学習支援員等配置事業については、国の緊急雇用対策から始まり、その後町が継続して行っている事業である。この事業をとおして、授業が落ち着いてきたとか、児童生徒の基礎学力の定着に役立っているとかの教員による評価を踏まえて評価をした。今後もこの事業が継続されることを期待する。

幼稚園運営事業については、専任園長制が導入されて2年目となり、各園ともしっかり計画に基づき運営がなされている。そのことで、保護者の信頼も今まで以上に得られるようになって、就園率も高くなってきている。こうした状況を高く評価した。その一方で、

待機児童が多く存在しているとか、職員数に余裕がないとかという課題もあり、預かり保育の年齢枠の拡大など検討が必要だと思われる面もある。

放課後子ども教室推進事業については、子ども達の健全な育成ということを目的として、これまで学校の空き教室を主に利用して取り組まれてきた。しかし、各学校で人数が30名と限られていることや、空き教室がなく事業が立ち上がっていない学校もあるなど、事業が円滑に進められていない学校もある。そういう面を踏まえると、評価が厳しくなった。空き教室以外に子ども達を集めて、学習等ができる居場所を確保する必要がある。子ども達の最善の利益を考えて、関連する部署には連携して対応していただきたい。

陸軍病院壕公開活用事業については、壕の一般公開が始まってから8年になるが、沖縄戦を体験できる施設として評価され、文化センターの見学と合わせて、見学者の数も一万名程度になってきている。安全に対する配慮や、ガイドの養成なども行われており、全体として高く評価できると判断した。

青年海外派遣事業については、海外移住者の子弟を研修生として受け入れる事業と連動するものであり、移民先の移民3世4世との交流を目的として実施されている。町の国際化を推進する事業であり、派遣される町民は、派遣先の歴史や文化を学ぶことをとおして、国際感覚を身につけると同時に、研修生を受け入れる際には、彼らを支援する役割を担うことが期待される。そうした面から、この事業を高く評価をした。

以上、厳しく評価した事業もあるが、昨年同様各事業は、地域に即した優れた事業が多かったように思われる。厳しい評価は、期待の裏返しでもあり、南風原町の教育委員会の各課の力量からすれば、こんなものではないだろうと考えているところからきている。

今後とも、教育委員会の事業が協働しながら活性化し、発展していくことを強く願って、あとがきとしたい。